

平成27年度 中区地域力向上事業 事後評価

■助成事業

事業名 提案者	事業内容	総事業費 [補助額] (円)	採用 回数	中区 らしさ	事業目的 の達成度	財政支援 の必要性	費用対 効果	評価
1 第2回浜松「食の安全安心の街」を目指して！ (一社) 浜松市食品衛生協会	食品衛生の啓発を目的としたイベント 【期間】10月25日 【場所】アクト通り 【内容】手洗い教室、さんまの試食会など 【来場】約2,500人	1,582,882 [540,000]	2	B	A	A	B	○本市において、集団食中毒が問題となるなか、平成26年度からスタートした事業で、手洗い教室などを通じて食品衛生の啓発が図られたものと認められる。 ○食品衛生は「手洗いに始まり手洗いに終わる」ともいわれ、本市のケースにおいても手洗いが不十分であったことが原因の一つとして指摘された。手洗い教室では、多くの親子連れ等に対し、食品衛生推進員が正しい手洗いの方法を解説し、手洗いの重要性を再認識してもらう機会となった。 ○今後も、一層の広報及び参加者の増加に努めながら、継続して開催されることを期待する。
2 はままつハロウィンフェスティバル 常葉大学 社会貢献・ボランティアセンター	中心市街地の活性化を目的としたハロウィンのイベント 【期間】10月31日 【場所】ソラモ／ザザシティ中央広場 【内容】大学生によるミニライブ、ミスター・ミスキャンパス、子ども向けのイベント（探せ！お宝キーワード）、ダンスショー ほか 【来場】8,233人	2,760,412 [1,354,000]	1	B	A	A	B	○常葉大学の学生が主体となり、社会貢献の一環として企画したイベントで、目標（5,000人）を大きく上回る来場があり、中心市街地の活性化という目的は達成できたと認められる。 ○企業や店舗などに直接足を運び、135社からの協賛と、350を超える店舗等からイベントへの協力を得るなど、将来的に全国規模のイベントにしたいという意気込みは高く評価できる。また、イベント後に会場周辺の清掃活動も行った点も評価できる。 ○ハロウィンの経済効果は1,100億円にのぼり、バレンタインデー（1,080億円）を上回ったとの推計もある。現在、大学2回生が主体となり、本補助金と協賛金により運営しているが、継続して開催できるような運営体制の構築と財源の確保に努め、中区を代表するようなイベントに発展することを期待する。
3 アートルネッサンスinはままつ2015 アートルネッサンス実行委員会	ゆりの木通り、肴町を中心とした店舗や鴨江アートセンター、浜松城公園におけるアート展 【期間】10月31日～11月8日 【場所】中心市街地の店舗、浜松城公園、鴨江アートセンター 【内容】中心市街地の53店舗の店内やショーウィンドウにおいて、58人の作家が美術作品（絵画、版画、彫刻など）を展示するまちなかアート展、浜松城公園・鴨江アートセンターにおけるアート展 ほか 【来場】まちなかアート展：約2,000人、浜松城公園アート展：6,735人	718,903 [359,000]	1	B	B	A	A	○3つのアート展を中心に多くの来場があり、浜松を愛する芸術家が集まってアートの力で市街地の活性化に寄与するという目的は達成できたと認められる。 ○アート展のほか、浜松城公園における、子どもを対象としたワークショップ（落ち葉や枝を使った昆虫・動物制作体験 30人参加）、上記の「はままつハロウィンフェスティバル」における、浜松学芸高校の生徒によるワークショップ（ハロウィンのフェイスペインティング、アクセサリーづくり体験など 240人参加）など、子ども向けのイベントも実施した。 ○現代アートを核として、芸術活動に取り組む若者たちの作品発表の場を設けることで、アートの魅力を多くの市民に発信し、「中区 区政運営方針」に掲げる中区の将来像「都市の顔 薫る文化の 中区」づくりに貢献したものと認められる。 ○今後も、一層の広報及び参加者の増加に努めながら、継続して開催されることを期待する。
4 Hamamatsu Dining Japan Food Culture プロジェクト	主に中区のレストランのシェフによる、浜松の食材を使用したメニューをワンコイン（500円）で提供するイベント 【期間】11月3日 【場所】Hachikai（万年橋パークビル8階） 【内容】中区を中心とした飲食店の店主15人が出店し、浜松の食材を使ったメニューをワンコインで提供。シェフによるそば打ち等の実演 ほか 【来場】300人以上	974,482 [85,000]	1	B	B	A	A	○懐石いっ木（中区田町）、印度カレーmana（中区富塚町）など、中区を中心とする有名飲食店の店主15人が出店し、浜松の食材を使ったメニューを提供した。当初、600食（150人×4食の想定）を用意していたが、予想を上回る来場があり、急遽食材を追加して約1,700食が完売するなど盛況で、浜松の特産のPRや産業の活性化という目的は達成できたと認められる。 ○参加者からも好評だったとのことで、食材の準備など今回の反省点を踏まえて、今後も継続して開催されることを期待する。

■区民活動・文化振興事業

事業名 実施者	事業内容	市執行額 (円)	採用 回数	中区 らしさ	事業目的 の達成度	区実施の 妥当性	費用対 効果	評価
1 お楽しみ子ども演劇事業 中区 まちづくり推進課	公募の小・中学生が劇団員の演技指導を受け、演劇公演を行なうもの。 【時期】7月～8月（練習：7～8月の10回、公演：8/27・8/28の2回） 【場所】練習：県居協働センター 公演：クリエート浜松 【参加】出演者（小学生16人）、観劇者（202人） 【委託先】劇団 砂喰社（すなくいしゃ）	1,076,772	-	B	A	A	B	○応募した小学生16人が10日間の長期にわたる演技指導を受け、その成果をクリエート浜松のホールで披露した。演技指導や公演を通じて、舞台のすばらしさを体感し、協調性や物語を作り上げていく喜びを味わうことができ、文化的・創造的な人材育成を図ることができた。 ○演目は、徳川家康公顕彰四百年にあわせ、家康公の負け戦である三方ヶ原の戦いを描く合戦演劇「戦国 MIKATAGAHARA!」とした。 ○観客の子どもたちも、自分と同じ小学生の演技に感動し、演劇に対する関心を深めているように見受けられ、多くの子どもたちの感受性を育むことができた。
2 人形劇を活用した子ども 育成事業 中区 まちづくり推進課	人形劇鑑賞及び人形製作講座「はじめての人形劇」 【場所】協働センター（富塚・曳馬・高台） 【時期】10/5（富塚）、10/26（曳馬）、高台（11/10） 【内容】浜松市人形劇協会による人形劇の鑑賞と人形の制作体験（3回） 【参加】乳幼児（1～3歳）と保護者 合計83人（大人40人・子供43人） 【委託先】浜松市人形劇協会	120,000	-	B	A	A	A	○第1部では「人形劇をみよう」として短く分かりやすい人形劇（はらべこあおむしほか）を親子で鑑賞し、第2部では「いもむしくんを作って遊ぼう」として親子で人形を作り、人形劇の操作を体験していただいた。 ○普段見ることができない生の人形劇を間近で子どもたちが鑑賞することで、心豊かな人格形成に寄与することができた。 ○人形の製作体験では、子どもの年齢や興味にあわせて、親子で一緒に作るか、親が子どものために作るかを選択できるようにし、希望者には託児を実施した。保護者が気軽に参加できる環境を整えることで、目標（90人）に近い83人の親子に参加いただくことができた。
3 中区よいとこフォトコン テスト 中区 区振興課	中区の良さを再認識してもらうためのフォトコンテスト 【期間】募集期間：9月1日～12月28日 表彰式：2月29日 【応募】165点（68人） 【入賞】金賞×1、銀賞×1、銅賞×2、家康くん賞×3、入選×10、特別賞×5 【委託先】東海電子印刷株式会社	298,760	-	A	B	B	B	○中区の良さを写真で募り、中区民に中区の良さを再認識してもらうと同時に、中区民以外にも広く中区の良さを知ってもらい、実際に行ってみようというきっかけを作ることを目的に企画した。 ○165点と多くの応募があり、入賞者には表彰式を行ったほか、入賞作品は2月～3月に市役所ロビーで展示して多くの来庁者にご覧いただくことができた。 ○入賞作品は、市公式ホームページ（中区＞中区よいとこフォトコンテスト）に掲載して周知しているところであるが、今後、広報はままつ等、他の媒体での活用を図っていく。

■区課題解決事業

事業名 実施者	事業内容	市執行額 (円)	採用 回数	中区 らしさ	事業目的 の達成度	区実施の 妥当性	費用対 効果	評価
1 「こども第一主義」 中区こども育成事業 中区 区振興課	未来の「創造都市・浜松」を担うスーパーキッズの発掘と、まちなかのにぎわいづくり、中区の施設の認知度向上を目的としたイベント 【期間】8月23日 【場所】ソラモ 【内容】スーパーキッズコンテスト(21組)、親子体験学習コーナー、スタンプ&クイズラリー、家康公×クイズ、家康くんじゃんけんゲーム 【参加】922人 【委託先】株式会社SBSプロモーション浜松支社	2,540,295	-	A	A	B	B	○多くの親子連れでにぎわい、まちなかのにぎわいづくりという目的は達成できたものと認められる。メインのイベントであるスーパーキッズコンテストには、21団体80人(未就学児~18歳)が出演し、一輪車、なわとび、ハンドベル、童謡歌唱、恐竜の名前あてクイズなど、多彩な一芸を披露してくれた。普段、人前で披露する機会の少ない芸にもスポットを当て、入賞者には表彰状やトロフィーを贈呈するなど、未来を担う子どもたちが成功体験を積み、自信を育む一助となった。 ○中区内の5施設(浜松科学館、楽器博物館、浜松こども館、復興記念館、木下恵介記念館)巡るスタンプラリーを開催し、参加親子55名に施設の知名度向上を図ることができた。 ○親子体験学習コーナーでは、アートバルーン、ミニ凧づくり、天竜杉・檜を使ったマイ箸づくり、ミニ凧づくりなどにそれぞれ100人以上の親子が参加し、親子がふれあいながら、モノづくりの楽しさを学ぶ場を設けることができた。 ○来場者へのアンケート結果等を参考に、内容の改善を図りながら、今後も継続していきたい。
2 地域防災マップ作成事業 中区 区振興課	延焼火災の防止を目的とした防災マップの作成 【目的】静岡県第4次被害想定において、中区の被害の事象として「延焼火災」が懸念されている。住宅密集地など、被災者が多く発生すると予想される地域を対象に、実情にあった防災マップを作成し、日頃から防災に対する備えを行うとともに、地域住民への防災意識の啓発を行なう。 【対象】中区高町、中山町、鴨江町、三組町 【委託先】土地家屋調査士法人TOSOK法務	4,399,999	-	B	A	A	B	○中区内で特に住宅が密集し、狭い道路が多い高町、中山町、鴨江町及び三組町を対象に、防災マップを作成した。マップは、GIS(地理情報システム)を活用し、病院、消防署、避難所、防災倉庫などの施設や、街頭に設置されている消火栓、消火栓、貯水槽、飲料水等の自動販売機などの設備の位置をパソコンやスマートフォンで閲覧できるものとした。 ○紙媒体の防災マップに比べて、配布のコストや手間がかからず、システム上で情報の更新が可能のため即時性や拡張性に優れたマップとなった。 ○マップの作成は、住民が主体となり自ら作り上げることを基本とし、地元住民と委託業者が実際に現地を歩き、日ごろから危険と感じている箇所や施設・設備の位置など、マップに掲載する情報の収集を行った。これらの過程を通じて地域の連携が深まり、防災意識の高揚が図られた。
3 bjリーグ浜松・東三河フェニックス選手とのふれあい交流事業 「夏だ!バスケだ!フェニックスだ!! in ソラモ」 中区 まちづくり推進課	浜松地域初のプロスポーツ集団でプロバスケットボールチームであり、2014-2015シーズン優勝を果たした、bjリーグ(※)浜松・東三河フェニックスの選手とのふれあい交流イベント ※bj=Basketball Japan 【時期】8月1日 【場所】ソラモ 【内容】ワンポイントクリニック(選手から小学生への技術指導)、選手とのフリースロー対決、トークショー、写真撮影・サイン会、その他(交通安全啓発コーナー)	997,290	-	B	A	A	A	○多くの来場者があり、チームの知名度アップとにぎわい創出という目的は達成できたものと認められる。 ○ソラモにバスケットコートを設置し、選手(4人)からのワンポイントクリニックとフリースロー対決等を行った。あわせて33人の小学生が参加し、選手から直接、技術指導を受けた。プロ選手の鮮やかなテクニックや、豪快なダンクシュートを目の当たりにし、目を輝かせる子どもたちの様子がみられ、スポーツの振興や子どもの健全育成にも寄与したものと認められる。 ○会場内に交通安全体験コーナーを設けるとともに、選手にもトーク参加してもらい、区をあげて取り組んでいる交通安全啓発のPRも図られた。
4 中区巡回体験型交通安全啓発事業 中区 まちづくり推進課	浜松市は交通事故が多く、人口10万人あたりの交通事故件数が1,127人(平成26年)と政令指定都市の中でワーストワン(6年連続)である。なかでも、平成26年の中区の事故は2,918件と浜松市の7区で最多であり、特に死亡事故は高齢者が犠牲になる傾向(5人中3人)があることから、中区民の交通安全意識の高揚を目的とした啓発事業を行うもの。 【内容】 ○平成26年度の地域力向上事業で作成した、市街地交通事故多発交差点セーフティマップ「中区交通安全の手引き」の増刷(300部) ○展示パネルや飲酒体験ゴーグル等を活用した巡回体験型の交通安全教室の開催(計20回/参加1,231人)	360,180	-	A	A	A	A	○平成26年度に地域力向上事業により「中区交通安全の手引き」を作成した。これは、事故多発交差点5箇所での特徴的な事故の事例や原因を調査・分析し、危険防止のためのポイントをまとめたもので、平成27年度には手引きの増刷を行った。 ○協働センターまつりや、シニアクラブの集会等の機会に各地を巡回し、交通安全教室を計20回開催した。教室では、上記の手引きや飲酒体験ゴーグルを活用して、参加者(計1,231人)に交通安全の大切さや飲酒運転のおそろしさを体験していただくことで、交通安全意識の高揚という目的は達成できたものと認められる。 ○交通安全には、息の長い地道な啓発活動が不可欠なことから、引き続き啓発に努めるとともに、手引きの改訂も検討していく。

事業名 実施者	事業内容	市執行額 (円)	採用 回数	中区 らしさ	事業目的 の達成度	区実施の 妥当性	費用対 効果	評価
5 第2種協働センターを核とした地域課題解決事業「姫まつ講座 開催事業」 中区 まちづくり推進課 (北部協働センター)	<p>浜松市指定史跡「姫街道の松並木」の保存と街道の歴史について、市民及び子どもたちとともに学び、松並木と住民の生活の共生を考えるもの。</p> <p>【実施】北部協働センター 【期間】7月～2月 【内容】 ○姫街道と松並木の歴史を学ぶ講座8回（参加142人） ○松並木写真展 ○松並木案内板作成（樹木の名称や特徴、松並木の歴史や昔の人々の暮らしの中でどう役に立ったか等を記載したプレートを8箇所に設置） 【場所】北部協働センター及び姫街道松並木周辺 【委託先】姫まつ倶楽部</p>	300,000	-	A	A	A	B	<p>○平成27年度から、各区において「第2種協働センターを核とした地域課題解決事業」を実施している。これは、地域づくりの核となる協働センターの職員が、地域で活動する団体等と協働して地域の課題解決に取り組むことで、職員の資質の向上を図ることを目的としている。</p> <p>○平成27年度は、北部協働センターにおいて、「姫まつ倶楽部」と協働して姫街道の松並木の保存や姫街道の歴史について学ぶ「姫まつ講座」を開催した。</p> <p>○「姫まつ倶楽部」は、平成15年に松の1本が樹芯の空洞化により倒れたことをきっかけに、中区の葵東・葵西周辺の有志により立ち上がったボランティア団体で、浜松市の指定文化財である姫街道の松並木の保存活動や、地元こども会への啓発活動等を行っている。しかし、会員（12人）の高齢化により清掃、草刈りなどの活動に支障をきたしているとのことで、今回、新たな会員の発掘を目的に「姫まつ講座」を企画した。今回の事業をきっかけに、会員が5人増えたとのことで、目的は達成できたものと認められる。</p> <p>○講座の内容や、案内板の設置場所・内容の検討など、倶楽部との調整を行う過程で、事業の企画・立案能力など職員の資質向上が図られた。</p>